

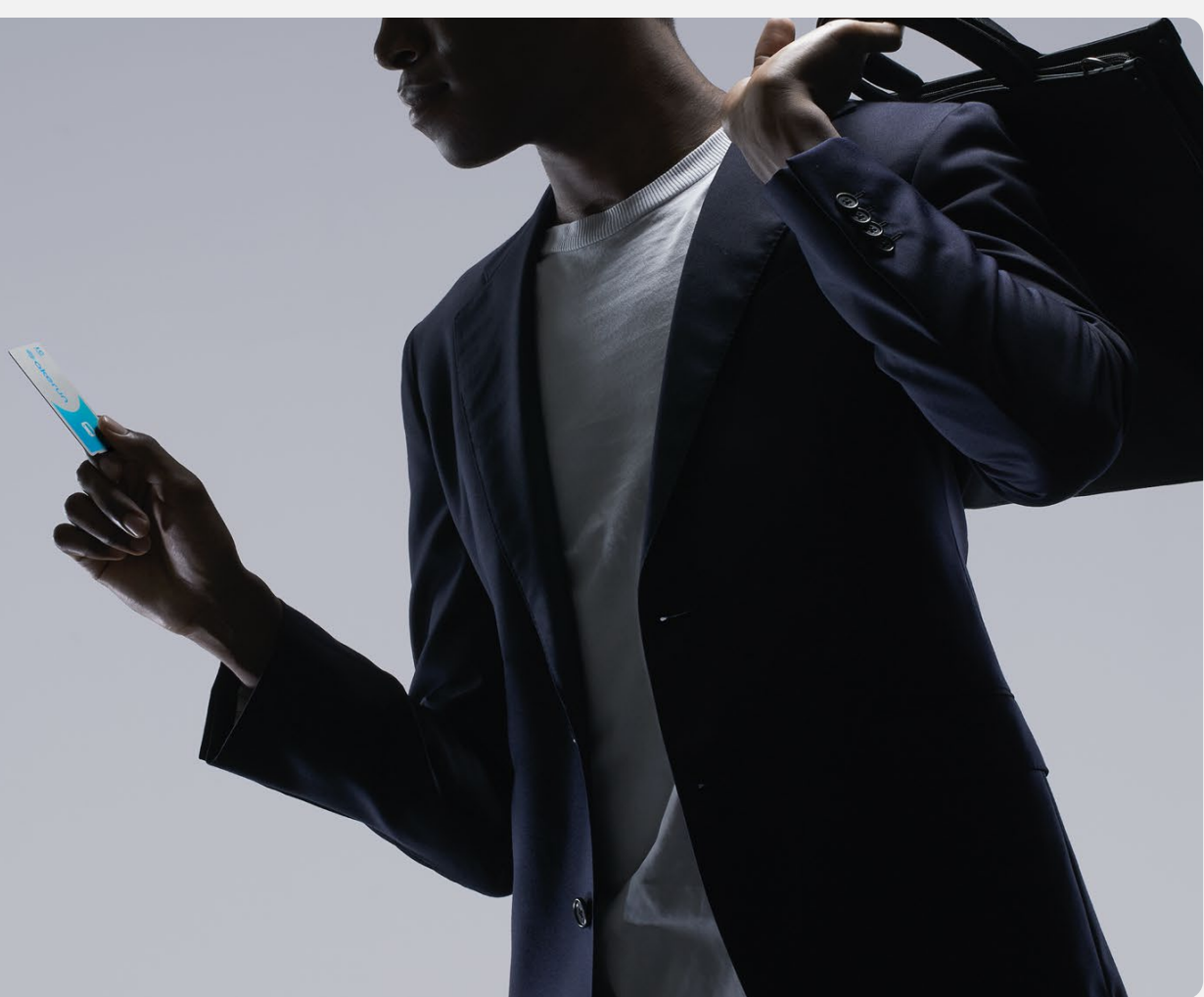
株式会社Photosynth

2024年12月期第3四半期
決算説明資料



Photosynth
10th ANNIVERSARY

2024年11月11日



アジェンダ

- ① 会社概要と事業概要
- ② 2024年12月期 通期業績予想の
上方修正について
- ③ 2024年12月期 第3 四半期決算説明
- ④ 補足事業数値
- ⑤ その他



アジェンダ

① 会社概要と事業概要

② 2024年12月期 通期業績予想の
上方修正について

③ 2024年12月期 第3 四半期決算説明

④ 補足事業数値

⑤ その他



会社概要



会社名 株式会社Photosynth(フォトシンス)

設立 2014年9月1日

役員陣 代表取締役社長 河瀬航大 社外取締役 井上英輔
取締役副社長 渡邊宏明 常勤監査役 島田和衛
取締役 高橋謙輔 社外監査役 矢澤昌史
取締役 熊谷悠哉 社外監査役 西本俊介

上場取引所 東京証券取引所 グロース市場(証券コード: 4379)

連結従業員数 143名 / 正社員数(2024年9月30日時点、役員を除く)

所在地 本社：東京都港区芝5-29-11 G-BASE田町15階
(他、札幌、大阪、福岡の営業拠点と物流拠点)

事業内容 • IoT関連機器の研究開発
• 「Akerun入退室管理システム」の開発・提供

テクノロジー ハードウェアからクラウドサービスまで社内で研究開発
後付け型スマートロックを世界で初めてリリース
通信・認証や機構に関連する特許を7つ権利化・出願

ISMS認証 JUSE-IR-462

経営陣紹介



代表取締役社長
河瀬航大

ガイアックスに入社し、ソーシャルメディアマーケティング事業や新規事業開発に従事。ネット選挙の専門員として多数のTV出演・執筆活動を行う。



取締役
高橋謙輔

経営管理部管掌役員

監査法人トーマツを経て、「築地銀だこ」を展開するホットランドの取締役として、東証マザーズへの上場、東証一部への市場変更を統括。公認会計士。



執行役員
相田傑

Akerunビジネス本部本部長

楽天やGMOペパボ、などで、広告やデジタルマーケティングの責任者などを歴任、マーケティング業界や組織マネジメントにおける豊富な実績と経験を備える。



執行役員
村上航一

経営管理部部長

EY新日本で様々な企業や組織の経営基盤の強化に貢献。フォトシンスでは財務経理をリードするとともに、物流、基幹システムなど幅広く従事。公認会計士。



Chief Information Security Officer (CISO)
小嶋聡史

最高情報セキュリティ責任者

IJ、グリー、DMM.comなどで、セキュリティサービスマス、SREなどのプロジェクトをリード。数百名規模の開発組織のリードエンジニアの経験も有する。



取締役副社長
渡邊宏明

株式会社MIWA Akerun Technologies社長

ソフトバンクで法人営業や米PayPal社との合併事業立ち上げに参画。ソフトバンクアカデミア生。スポットライトでO2Oサービスの事業開発を担当。



取締役
熊谷悠哉

開発部管掌役員

パナソニックでスマートフォンや法人向け通信機器の開発に従事。現在は、開発管掌役員として、IoT x SaaSの開発業務全般を統括。



執行役員
安部晃嘉

ソフトウェア開発部部長

ソフトウェア受託開発会社でプリンター/複合機向けファームウェア開発プロジェクトの企画〜管理までを統括、10年以上のファームウェア開発の経験を有する。



執行役員
松山泰久

人事総務部部長

デジタルマーケティング会社に企画営業を経て総務人事で数百名規模の組織における採用・人材育成・人事制度設計など、人材開発に関わる幅広い業務を統括。



Chief Technology Officer (CTO)
渡邊大輝

最高技術責任者

SaaS企業で新機能開発や保守運用に従事した後、フォトシンスで連携機能開発やサービス基盤の開発・保守をけん引、HEaaSの開発業務全般をリード。

Akerun : 法人向け「Akerun入退室管理システム」の概要

錠・鍵・管理・認証がワンパッケージになった、クラウド型入退室管理システムです。
ハードウェアとソフトウェアを組み合わせたHESaaSでサービスを提供しています。

akerun 入退室管理システム



※HESaaSとは、Hardware Enabled Software as a Serviceの略で、アプリケーションソフトウェアをインターネット経由で提供するクラウドサービスであるSaaSと、ハードウェアのサブスクリプションモデル（レンタルモデル）を組み合わせた提供モデル。

Akerun : 法人向け「Akerun QR受付システム」の概要

ハードウェアを使用せず、スマホからQRコード*を読み込んで担当者呼び出すだけ。
簡単操作で来客対応業務・メンテナンス業務を可能にする受付システムです。

akerun QR受付システム



取次ゼロ・コア業務効率UP

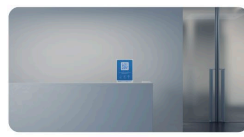


来客時に発生する
電話取次業務が不要!



来客をチャットで
担当者に直接通知!

簡単・置くだけ設置



機器の購入、電源工事、
メンテナンス不要だから、
低価格で導入開始!

*「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

Akerun：賃貸住宅向け「Akerun.Mキーレス賃貸システム」の概要

子会社のMIWA Akerun Technologiesを通じて、美和ロックの高信頼ハードウェアとPhotosynthの堅牢で柔軟性の高いクラウドシステムを組み合わせ、不動産管理会社のDXと住宅の価値向上、そして入居者の安心と快適性の向上を実現します。



51%
出資

49%
出資



国内最大手のスマートロック企業
高い認証・セキュリティ技術



国内最大手の鍵・錠前メーカー
高いメカ設計技術と安定的な生産体制

美和ロックの高い品質基準や耐久性をクリアしたハードウェアと、Photosynthがオフィス領域で培ってきた堅牢で柔軟性の高いクラウドシステムを組み合わせ、住宅の価値向上と入居者の安心・快適性向上に貢献していきます。

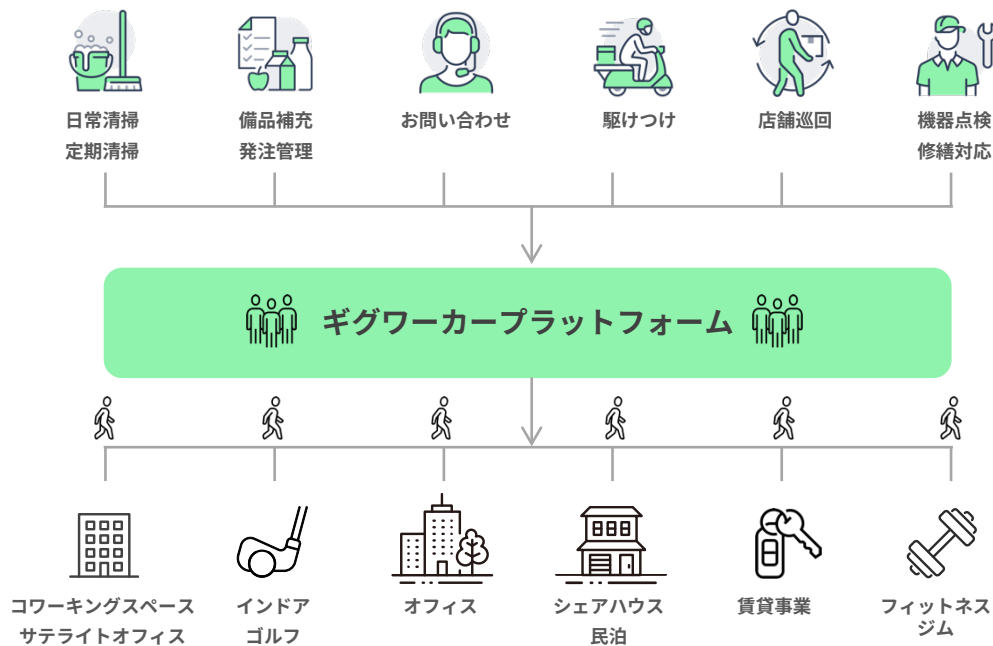
■ 賃貸住宅向けスマートロックサービス 「Akerun.Mキーレス賃貸システム」



賃貸物件の管理業務における、移動、時間、トラブルの大幅な低減に加え、スマートロックを活用した最新システムで物件価値を向上します。美和ロックの品質基準や耐久性をクリアした高信頼ハードウェアと、Photosynthの堅牢で柔軟性の高いクラウドシステムを組み合わせています。

Migakun : ギグワーカープラットフォームを活用した施設運営BPaaS「Migakun」の概要

Akerunで培ったオフィスや商業施設などのあらゆる空間における管理運営の課題解決のためのノウハウや事業シナジーを活かし、
“施設特性に合わせた業務設計”と”質の担保された現場オペレーション“、そして施設運営の無人化・省人化のためのサービスを提供します。



喫緊の社会課題である生産年齢人口の減少とそれに伴う人手不足への対策として、無人化・省人化に取り組む企業や組織に対して、AkerunとMigakunを両軸としたソリューションを提供し、社会課題の解決に向けた取り組みを支援します。



アジェンダ

- ① 会社概要と事業概要
- ② 2024年12月期 通期業績予想の
上方修正について
- ③ 2024年12月期 第3 四半期決算説明
- ④ 補足事業数値
- ⑤ その他



2024年12月期 通期業績予想の上方修正について

最近の業績の動向などを踏まえ、2024年2月13日に公表した業績予想を下記の通り上方修正します。

■ 上方修正の背景

- 主力サービスである「Akerun入退室管理システム」の新規顧客及び既存顧客における導入が堅調に推移
- 7月から本格展開しているギグワーカープラットフォームを活用した施設運営BPaaS事業「Migakun（ミガクン）」も堅調に事業を拡大
- 広告宣伝や展示会などのマーケティング活動の効率化と費用対効果に優れた活動への注力に加え、販売パートナーを通じた販売手法の確立と拡大による営業リソースの最適化
- 管理部門における各種コストも前回発表予想比で効率化
- 今後は、新規事業を含む将来的なさらなる事業拡大や成長加速を見据えた採用活動や人材への積極投資も予定しているため、継続的な組織体制の強化、新規事業への投資、そして人員増加を通じた事業成長の加速に向けて採用を活発化する計画

	2024年12月期 通期計画 (前回発表予想)	2024年12月期 通期計画 (今回修正予想)	増減額 (増減率：%)
売上高	2,900百万円	2,950百万円	50百万円 (1.7%)
営業利益	10百万円	60百万円	50百万円 (500.0%)
経常利益	10百万円	70百万円	60百万円 (600.0%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	25百万円	110百万円	85百万円 (340.0%)
1株当たり 当期純利益	1.61円	7.08円	—

アジェンダ

- ① 会社概要と事業概要
- ② 2024年12月期 通期業績予想の
上方修正について
- ③ 2024年12月期 第3 四半期決算説明
- ④ 補足事業数値
- ⑤ その他



Financials

<p>売上高^{*1}</p> <p>7.5億円+</p> <p>YoY Growth^{*2} : +19.3%</p>	<p>売上総利益^{*1}</p> <p>5.7億円+</p> <p>YoY Growth^{*2} : +13.3%</p>	<p>営業利益^{*1}</p> <p>0.0億円+</p> <p>YoY Growth^{*2} : - %</p>
<p>ARR (全社) ^{*3 *5}</p> <p>28.7億円+</p> <p>YoY Growth^{*2} : +18.2%</p> <p>リカーリング売上比率 : 94.9%</p>	<p>ARPU (全社) ^{*1 *5}</p> <p>42,639円+</p> <p>YoY Growth^{*2} : +12.2%</p>	<p>Churn Rate (全社) ^{*4 *5}</p> <p>1.11%</p>

(*1) 2024年12月期第3四半期実績（7月～9月）。当社は12月期決算。

(*2) 2024年12月期第3四半期実績。対前年同期比。

(*3) Annual Recurring Revenueの略語。2024年9月のサブスクリプション売上を12倍することにより算出。

(*4) 解約したMRRを解約前のMRRで除した割合の直近12か月移動平均。

(*5) 2024年12月期第2四半期から、Migakunの本格提供開始に伴い、管理会計の集計方法を修正したため、ARR・ARPU・Churn Rateの算出に考慮。

(注) 2024年12月期第1四半期まで掲載していた「四半期粗利率」「現契約社数」については後段の補足事業数値にて説明している。

ハイライト



期初計画比で、連結グループでの

通期の黒字幅が大きく上振れ



黒字化後の事業成長のさらなる加速に向けて

正社員数が増加トレンドに
転換

ローライト



黒字化後の事業成長の再加速や、新規事業のさらなる拡大を見据えた積極投資により、

採用費が増加

■ 売上高

今回発表した通期業績予想の上方修正後の計画に対し、当第3 四半期の売上高の進捗率は74.2%と堅調に進捗しています。

年度後半にかけて売上が徐々に積み上がる下期偏重のリカーリングビジネスのため、第3 四半期時点として順調な進捗と考えています。

なお、第3 四半期時点で、営業利益及び経常利益などが当初計画比で大幅に上振れているため、今回、2024年12月期通期業績予想を上方修正しています。

■ 営業利益

主に、売上拡大や収益性の強化により、当社連結グループとして期初からの連結営業利益の黒字化を継続しています。

	2024年12月期 第3 四半期実績	2024年12月期 通期計画 (今回修正予想)	達成率(%)
売上高	2,189百万円	2,950百万円	74.2%
売上原価	511百万円	—	—
売上総利益 (粗利)	1,678百万円	—	—
売上総利益率 (粗利率)	76.6%	—	—
営業利益	109百万円	60百万円	181.7%
経常利益	114百万円	70百万円	163.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	165百万円	110百万円	150.7%

■ 売上高・売上総利益

売上高および売上総利益は、Akerunの導入台数の増加やMigakunの事業成長に伴い、堅調に増加しました。

売上総利益率は、相対的に売上総利益の低い工事やMigakun等の売上が増加したことに加え、賃貸用資産の償却費が増加したことにより低下していますが、引き続き70%台後半の高水準を維持しています。

■ 営業利益

事業成長のさらなる加速に向けて、採用費を中心とした成長投資を積極的に推進している一方で、売上高の成長により、当社連結グループとして期初からの連結営業利益の黒字化を継続しています。

	2023年12月期 第3四半期実績	2024年12月期 第3四半期実績	増減額	増減率
売上高	1,794百万円	2,189百万円	+395百万円	+22.0%
売上原価	310百万円	511百万円	+200百万円	+64.6%
売上総利益 (粗利)	1,484百万円	1,678百万円	+194百万円	+13.1%
売上総利益率 (粗利率)	82.7%	76.6%	—	▲6.0ppt
販売管理費	1,620百万円	1,569百万円	51百万円減少	3.2%減少
営業利益	▲136百万円	109百万円	+245百万円	—
経常利益	▲134百万円	114百万円	+248百万円	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	▲102百万円	165百万円	+268百万円	—

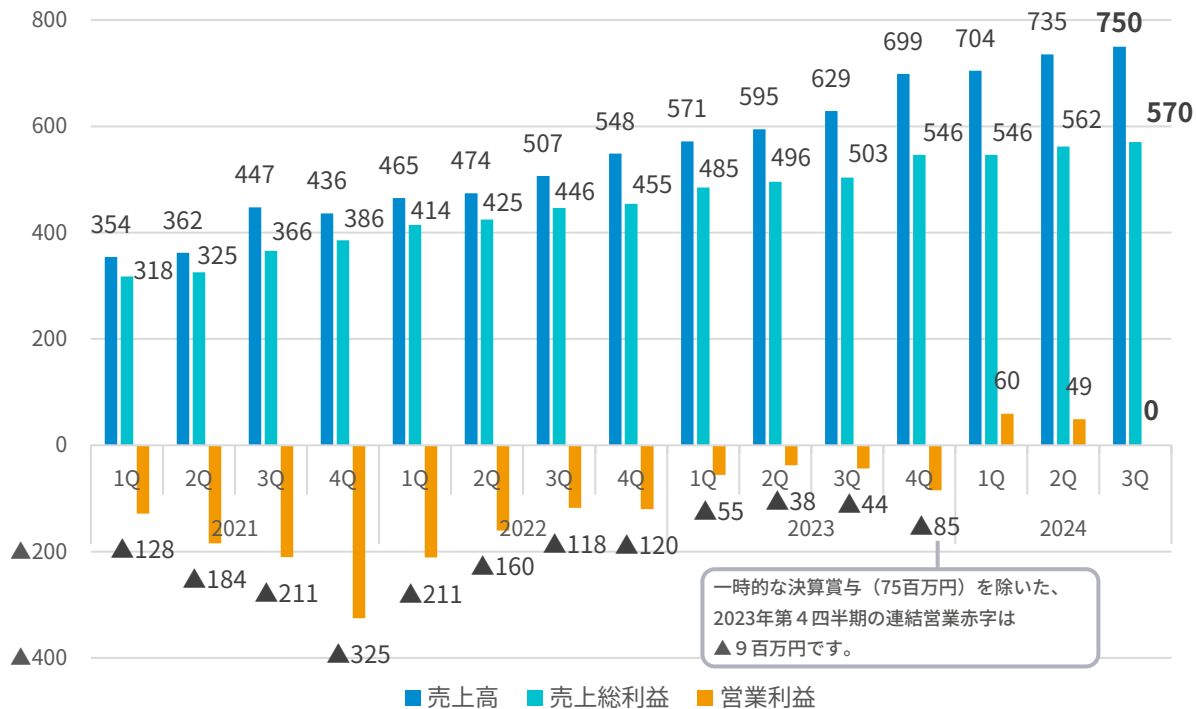
■ 売上高・売上総利益

売上高および売上総利益は、Akerunの導入台数の増加やMigakunの事業成長に伴い、堅調に増加しています。

■ 営業利益

事業成長のさらなる加速に向けて、採用を中心とした成長投資を積極的に推進している一方で、売上高の成長により、当社連結グループとして期初からの連結営業利益の黒字化を継続しています。

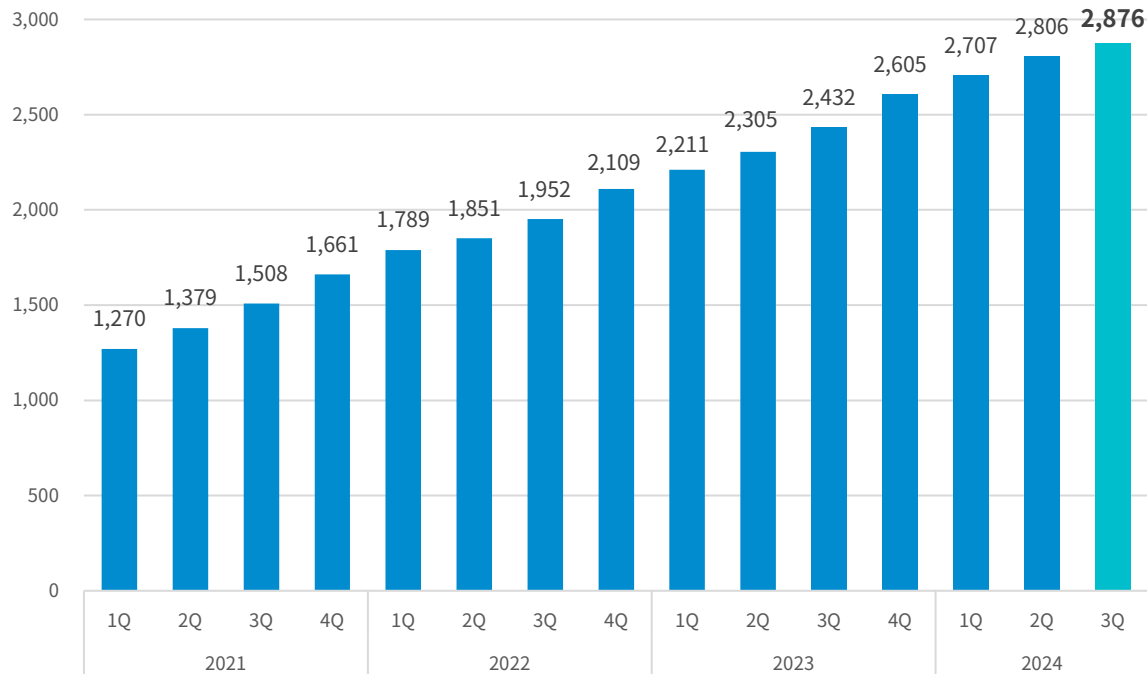
売上高と売上総利益および営業利益（百万円）



■ ARR (全社)

ARRは、Akerunの導入台数の増加や
Migakunの事業成長に伴い、
堅調に増加しています。

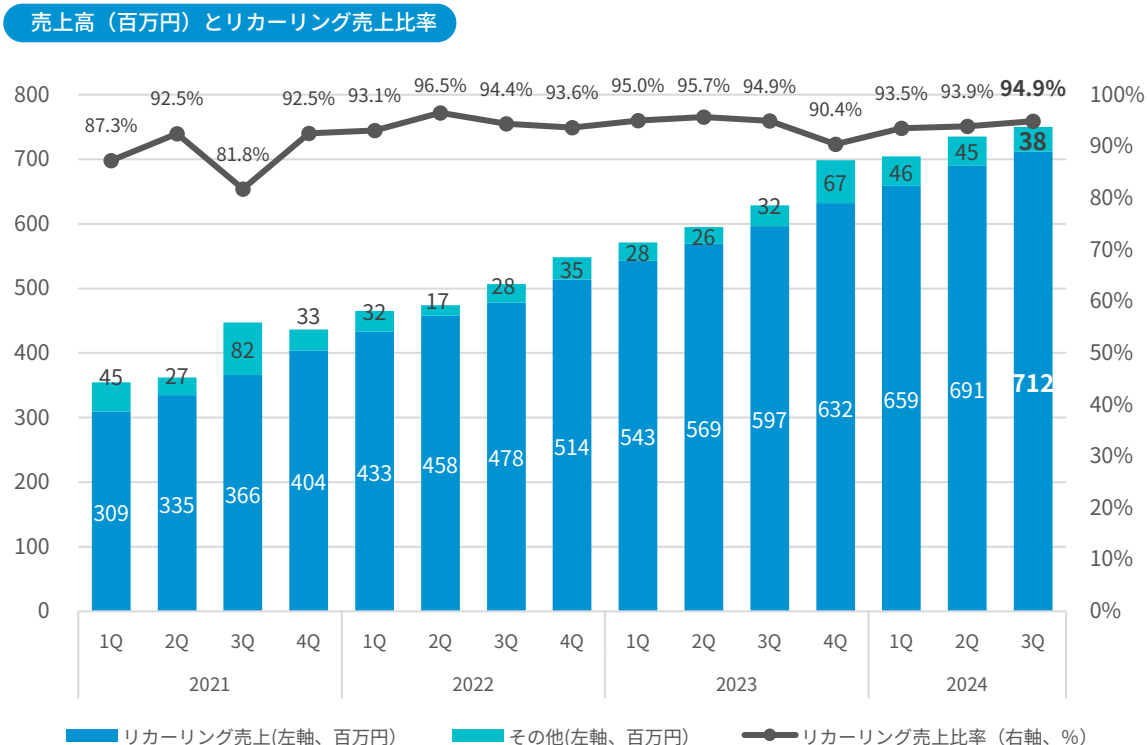
ARR (全社) 推移 (百万円)



■ 売上高とリカーリング売上比率

売上高は、事業における継続的な売上を示すリカーリング売上が堅調に増加したことで、前年同四半期比で22.0%増加しました。

また、当第3四半期のリカーリング売上比率は94.9%となり、高水準を維持しています。



(注) 2021年12月期第2四半期以前の数値は、監査及びレビューを受けていない。

(注) 2023年12月期第1四半期から、管理会計の集計方法を若干修正したため、過去数字についても遡及して組替表記している。

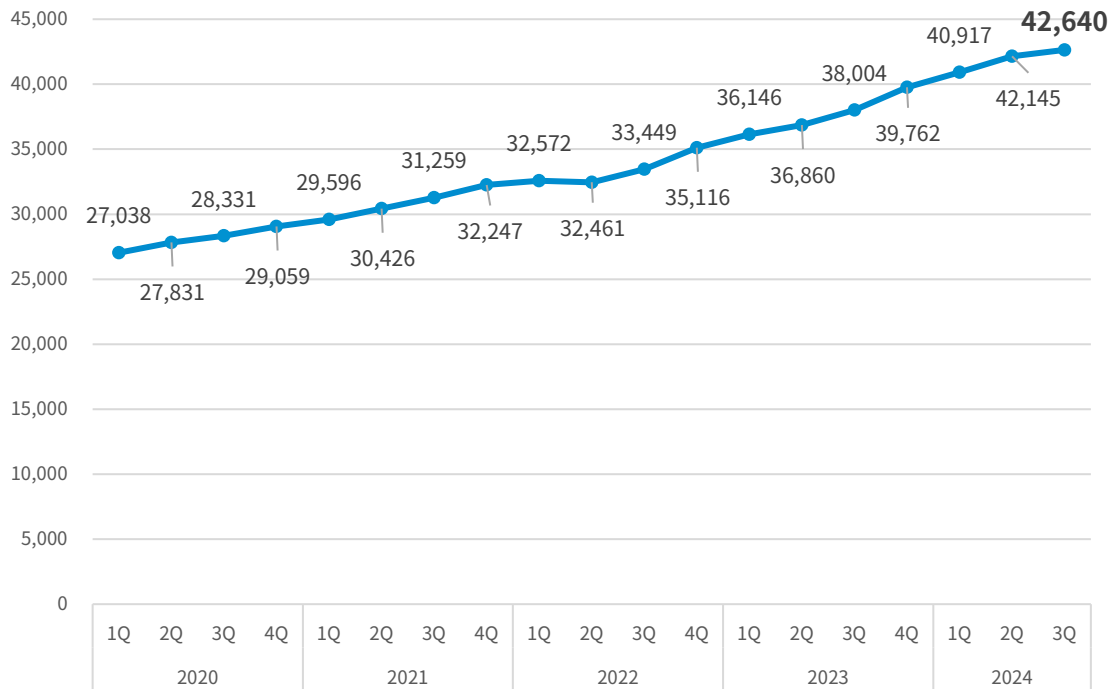
(注) 2024年12月期第2四半期から、Migakunの本格提供開始に伴い、管理会計の集計方法を修正したため、過去数字についても遡及して組替表記している。

■ ARPU（全社）

「1社あたりARPU（全社）」は、Akerunの1社あたりの導入台数の緩やかな拡大に加え、大規模企業や大型ビルなどの大口顧客の比率の増加、さらに、Akerun導入顧客を中心としたMigakunの導入によるクロスセルの拡大などにより、中期的な改善が継続しています。

今後も、年率10～15%程度の拡大ペースが継続すると見込んでいます。

ARPU（全社）推移 (円/社)



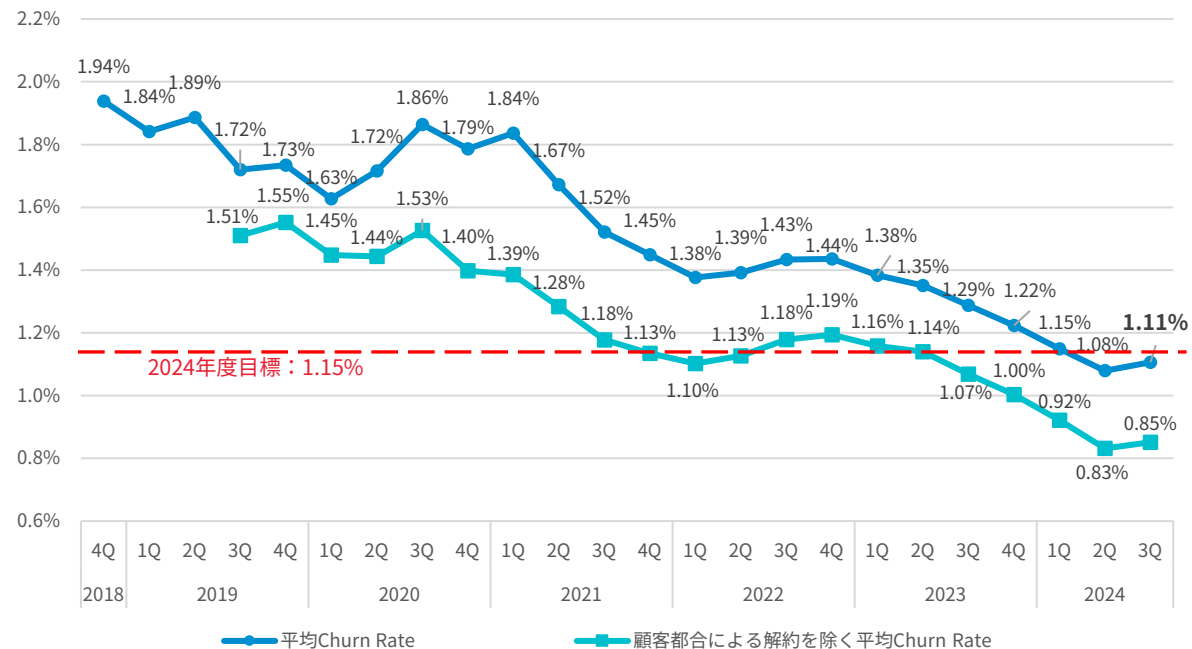
2024年12月期 第3四半期 Churn Rate (全社) の推移

■ Churn Rate (全社)

当第3四半期のChurn Rate^{*1} (全社) は1.11%となり、引き続き2024年12月期のChurn Rate目標である1.15%を上回る結果となりました。

「顧客都合による解約^{*2}を除く平均Churn Rate」は、中期的に大規模顧客への拡販、API連携の増加、Akerunコントローラーの構成比拡大などにより、さらなる改善を見込んでいます。

平均Churn Rate (全社)



(*1) 各期のChurn Rateは、12ヶ月移動平均

(*2) 顧客の縮小・閉鎖・倒産による解約

■ 売上原価

リカーリング売上の上振れにより、売上原価は増加しました。

■ セールス&マーケティングコスト

リード獲得における効率性を重視しながら、さらなる事業成長に向けた投資を推進しているため、直前四半期比で増加した一方、前年同四半期比では減少し、引き続き効率性の高いマーケティング活動を推進しています。

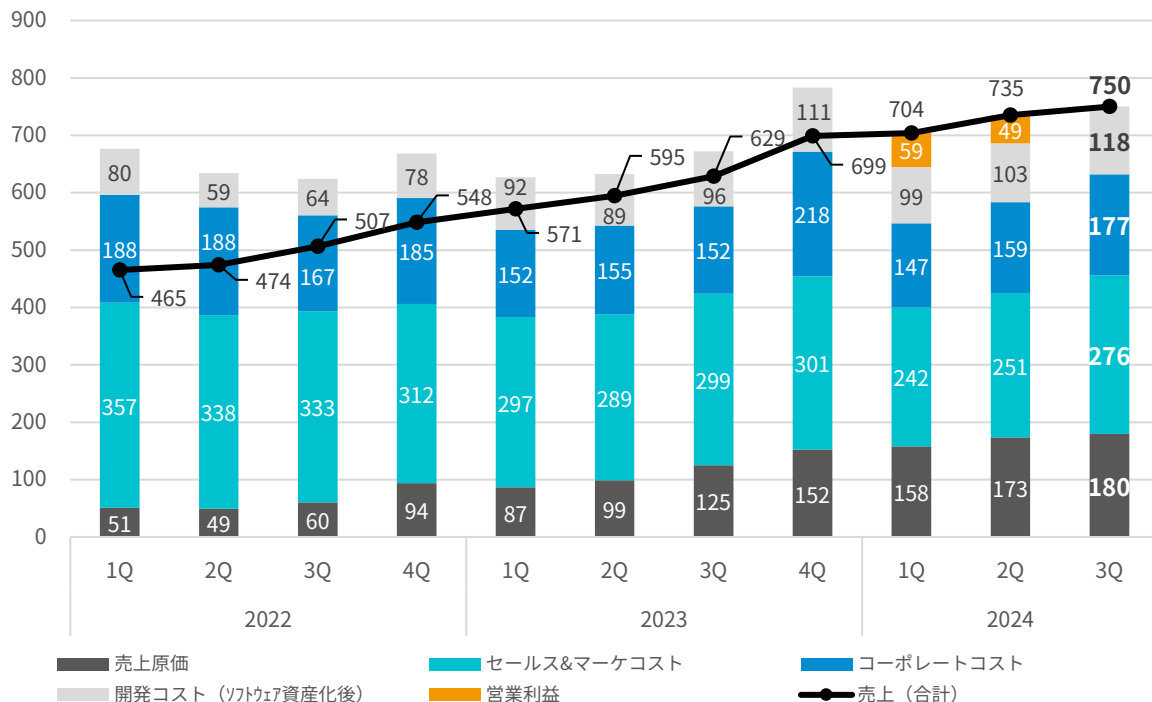
■ コーポレートコスト

事業成長の加速のための採用への積極投資を推進したことにより、前年同四半期比および直前四半期比で、それぞれ増加しています。

■ 開発コスト（ソフトウェア資産化後）

ソフトウェア資産化の減少などにより、前年同四半期比および直前四半期比で増加しています。

売上高と営業費用の推移（百万円）



(注) 2021年12月期第2四半期以前の数値は、監査及びレビューを受けていない。
 (注) 2023年12月期第1四半期から、管理会計の集計方法を若干修正したため、過去数字に関しても遡及して組替表記している。

■ 売上総利益（粗利）

リカーリング売上の上振れにより、売上総利益は増加しました。

■ セールス&マーケティングコスト

リード獲得における効率性を重視しており、主にマーケティングコストを中心に減少しました。

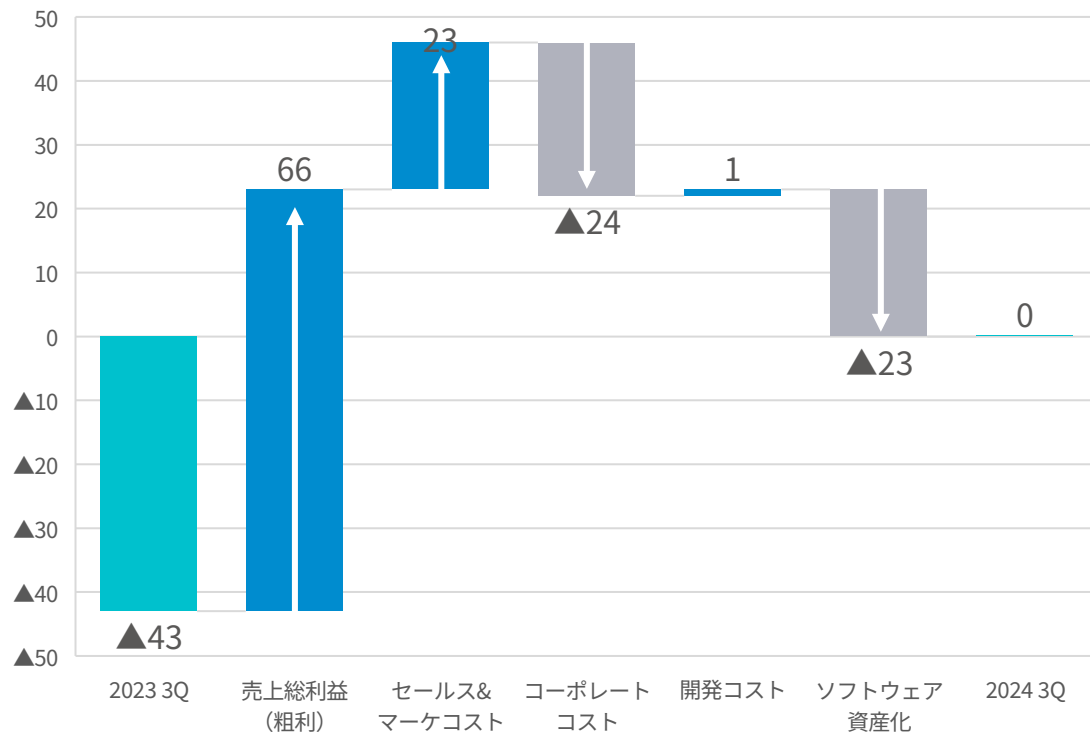
■ コーポレートコスト

事業成長のさらなる加速に向けて、採用費を中心とした人材への積極投資を推進した結果、前年同四半期比で増加しています。

■ 開発コスト及びソフトウェア資産化

キャッシュベースの開発コストは大きな変動がない一方で、ソフトウェアの資産化が減少しています。

損益変動要因（2023年度第3 四半期 対 2024年度第3 四半期、百万円）



■ 売上総利益（粗利）

リカーリング売上の上振れにより、
売上総利益は増加しました。

■ セールス&マーケティングコスト

リード獲得における効率性を重視している一方で、
さらなる売上成長に向けて、
主にマーケティングコストが増加しました。

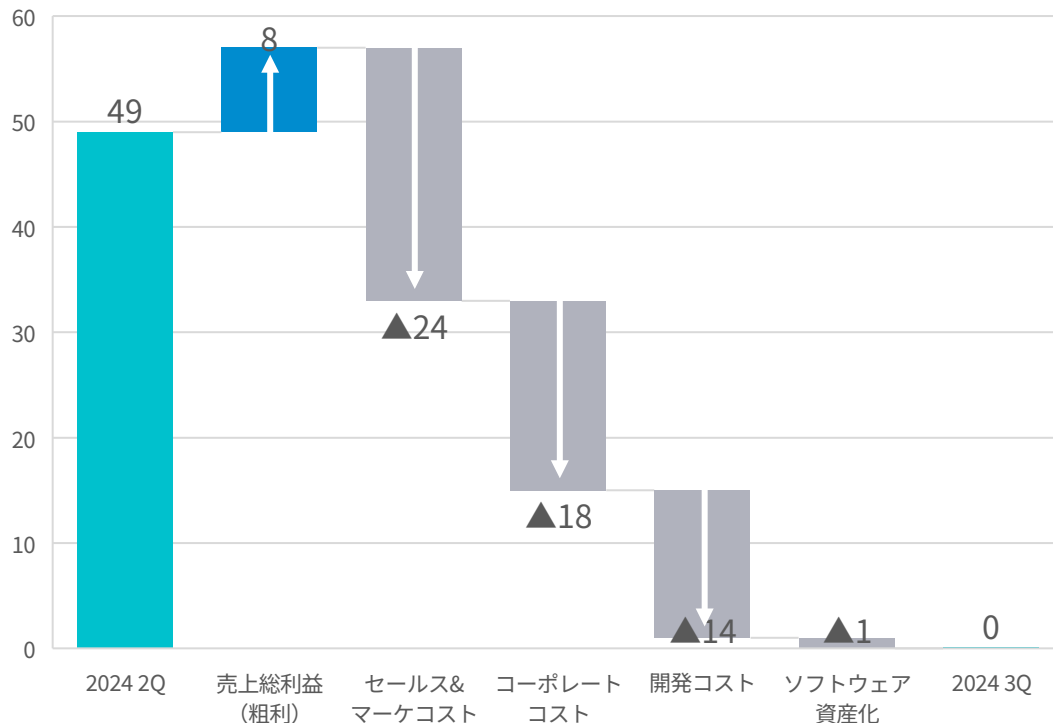
■ コーポレートコスト

事業成長のさらなる加速に向けて、
採用費を中心とした人材への積極投資により
増加しました。

■ 開発コスト及びソフトウェア資産化

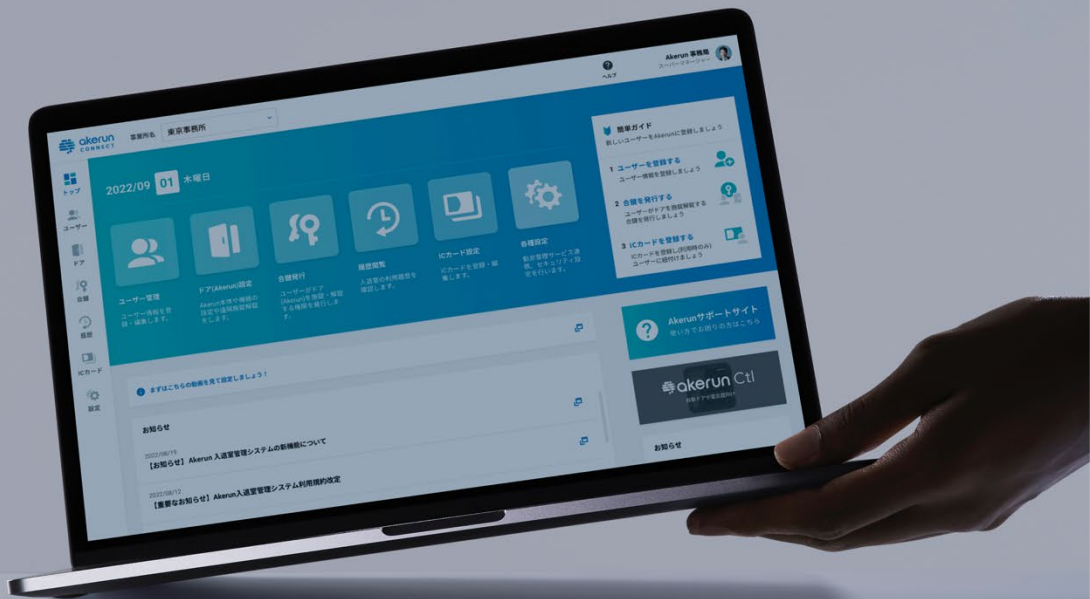
キャッシュベースの開発コストは増加した一方で、
ソフトウェアの資産化はほぼ横ばいとなりました。

損益変動要因（2024年度第2 四半期 対 2024年度第3 四半期、百万円）



アジェンダ

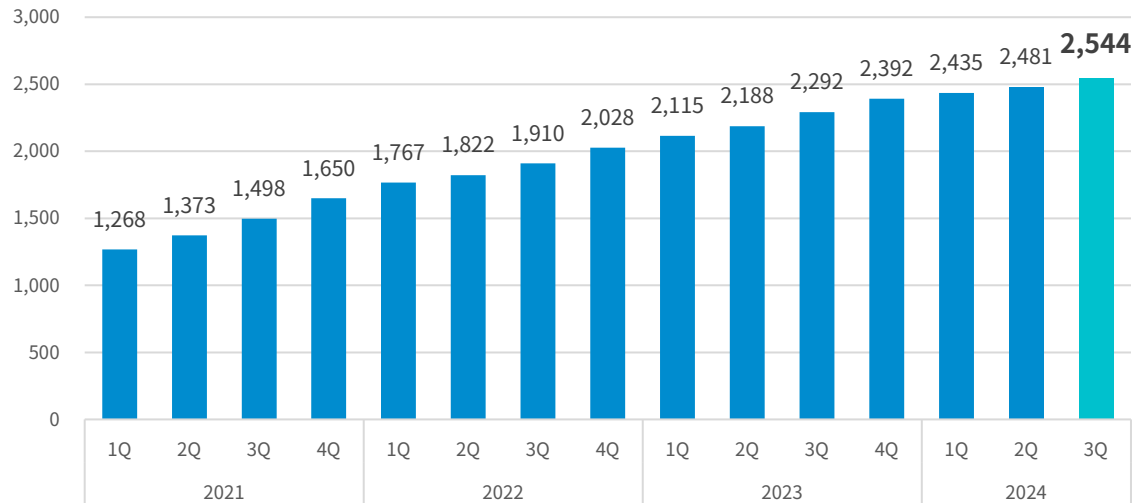
- ① 会社概要と事業概要
- ② 2024年12月期 通期業績予想の
上方修正について
- ③ 2024年12月期 第3 四半期決算説明
- ④ 補足事業数値
- ⑤ その他



ARR成長率は11.0%

AkerunのARR成長率は、通期黒字化を目標にコスト圧縮などを通じた効率的な営業活動を重視したことから、生産性の向上は順調に進捗している一方で、ARR成長率としては若干逡減しています。

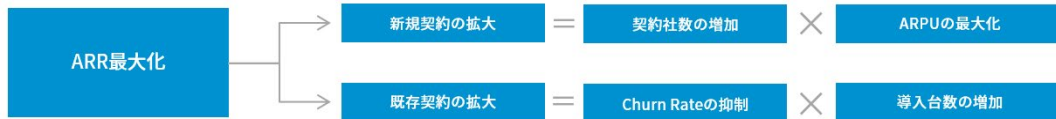
Akerun ARR（百万円）



(*1) Annual Recurring Revenueの略語。各期末サブスクリプション売上を12倍することにより算出。

KPI

主力事業のAkerun入退室管理システムは、ハードウェアとソフトウェアを組み合わせたHESaaSとしてサービス提供し、事業の成長性を表すARRを重要経営指標としています。

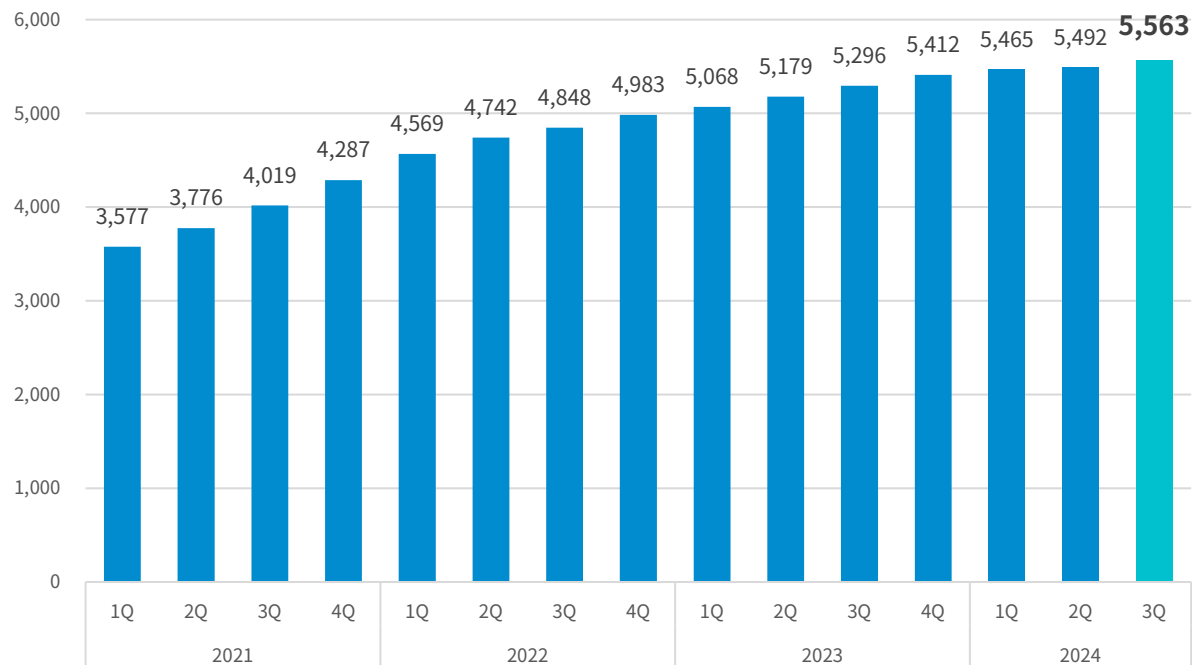


現契約社数は 5,500社超に

2021年から推し進める
営業チャンネル戦略が功を奏し、
着実に顧客数を伸ばしています。

また、大口顧客比率の増加などにより、
ARR成長率>社数成長率
となっています。

Akerun 期末契約社数推移

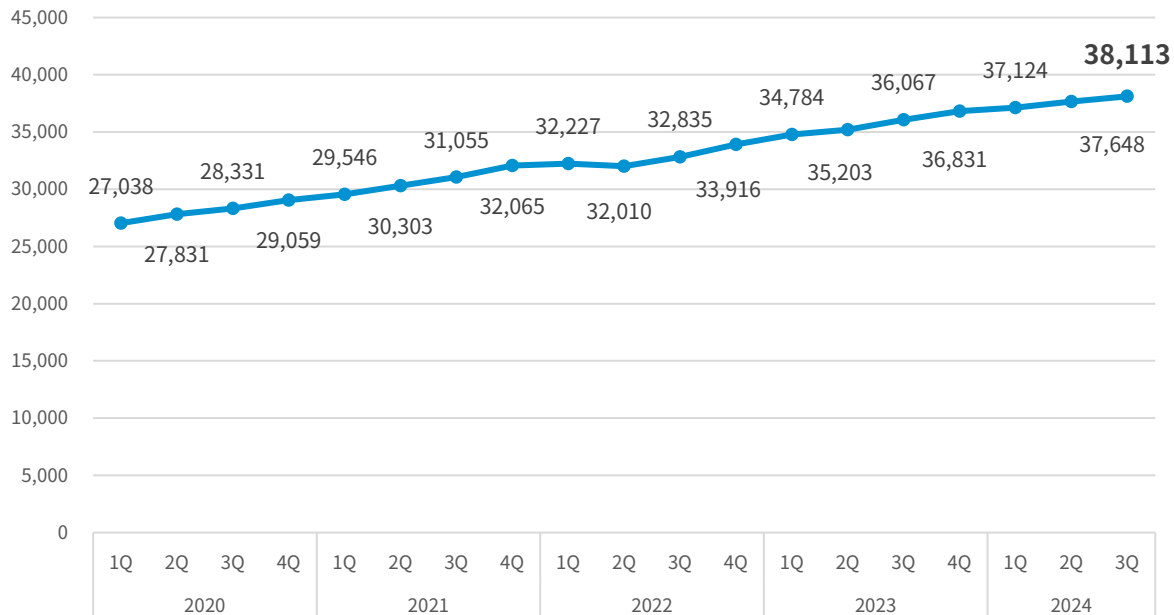


ARPUは 継続的に拡大

「1社あたりARPU（Akerun）」は、1社あたり導入台数の緩やかな拡大に加え、大規模企業や大型ビルなどの大口顧客の比率の増加、API連携などのクロスセルの拡大などにより、中期的な改善が継続しています。

今後も、年率5～10%程度の拡大ペースが継続すると見込んでいます。

ARPU（Akerun）推移（円/社）

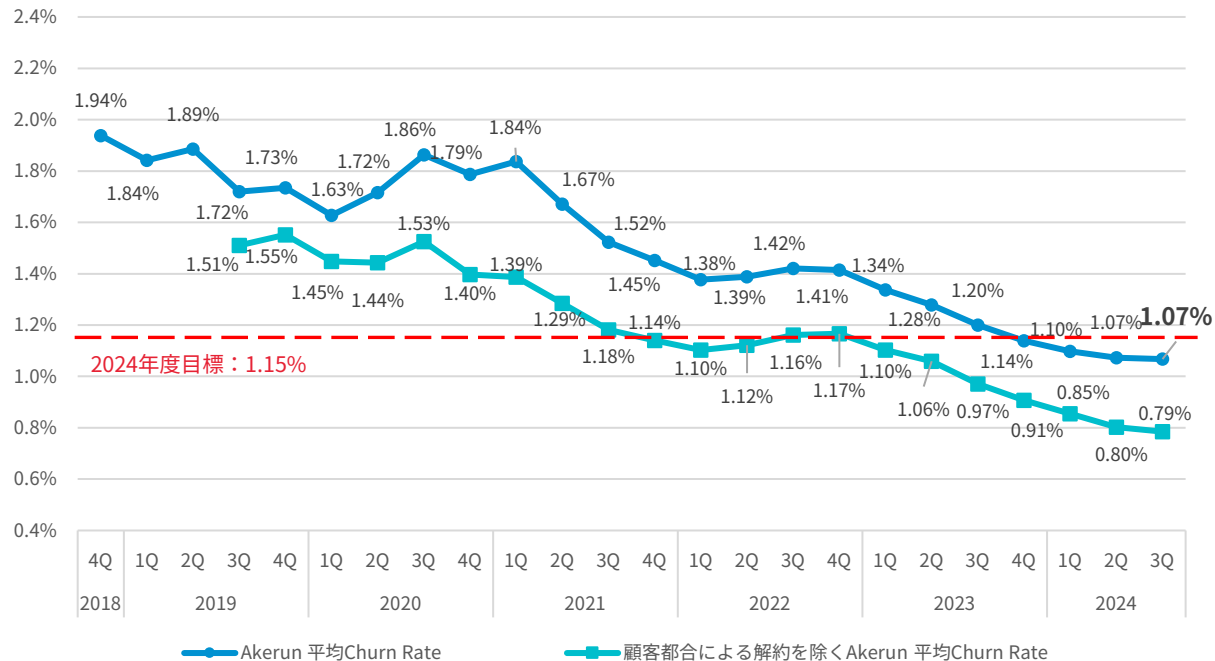


Churn Rate^{*1}は 継続的に改善

当第3四半期のChurn Rateは
1.07%となり、2024年12月期の
Churn Rate目標である1.15%を
引き続き上回る結果となりました。

「顧客都合による解約^{*2}を除く平均Churn Rate」は、中期的に大規模顧客への拡販、API連携の増加、Akerunコントローラーの構成比拡大などにより、さらなる改善を見込んでいます。

平均Churn Rate (Akerun)



(*1) 各期のChurn Rateは、12ヶ月移動平均

(*2) 顧客の縮小・閉鎖・倒産による解約

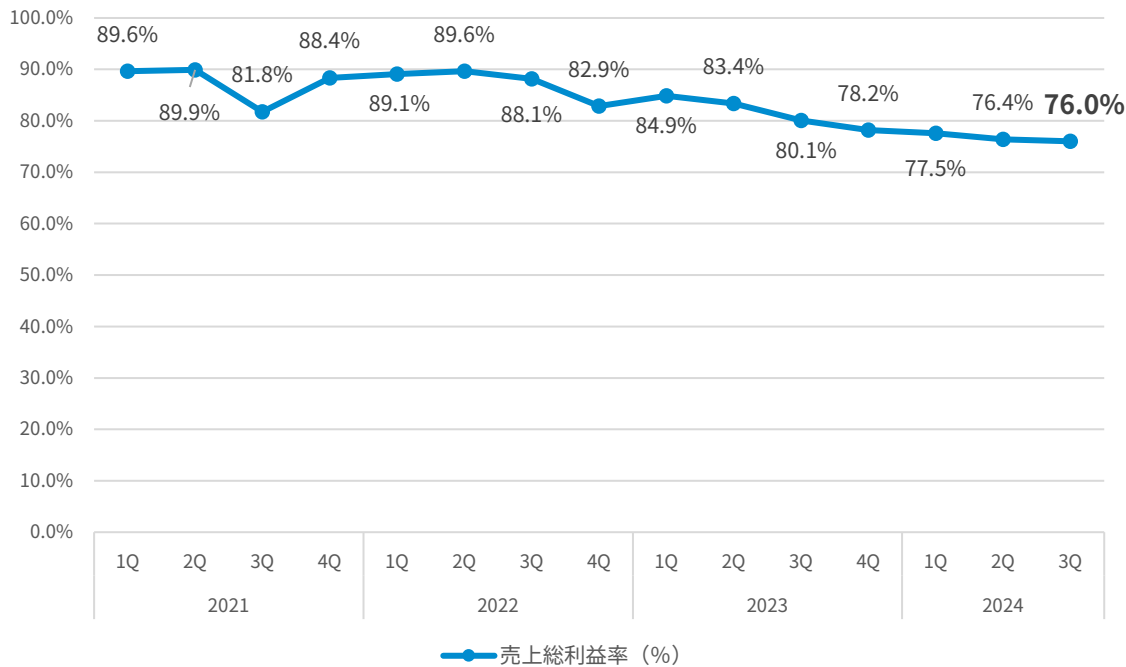
売上総利益率は 高水準を維持

売上総利益率は、相対的に売上総利益の低い工事や Migakun サービス等の売が増加したことに加え、賃貸用資産の償却費が増加したことにより低下していますが、引き続き70%台後半の高水準を維持しています。

■ 今後の売上総利益率の見通し

中期的には、賃貸用資産およびソフトウェアが事業拡大に伴い積み上がることによる償却費の増加を見込んでおり、リカーリング売上の売上総利益率は、数年をかけて徐々に低下する一方で、今後も高い水準を維持できるものと考えています。また、売上総利益率の水準は、売上項目の構成比次第で変動する可能性があります。

売上総利益率

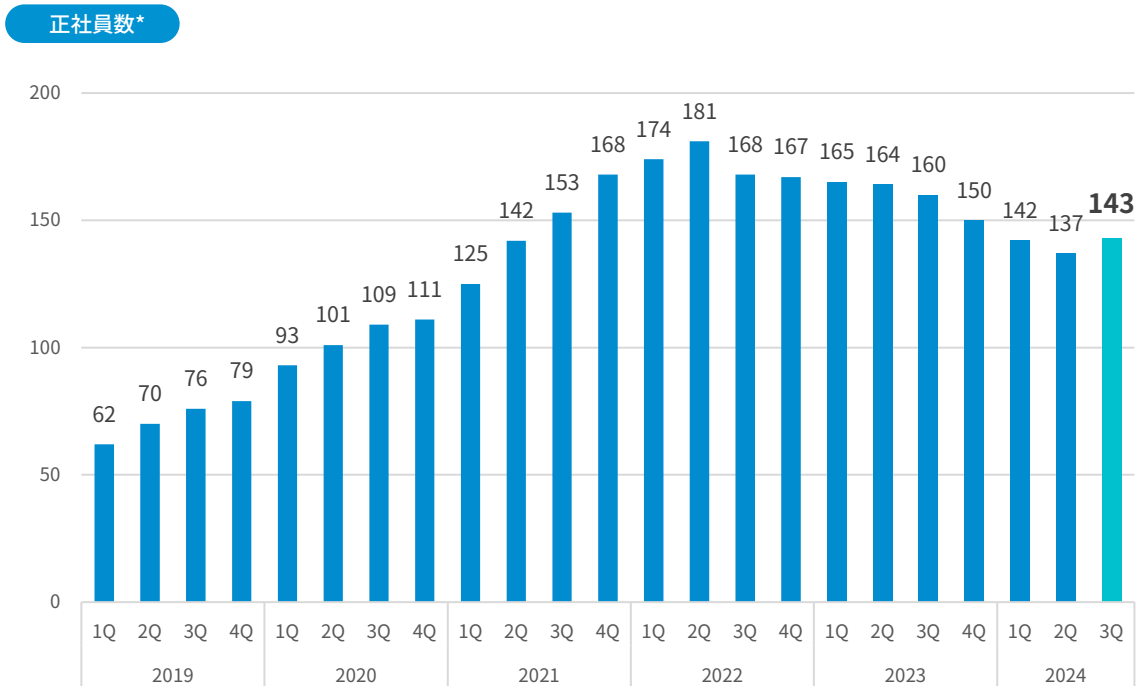


さらなる成長に向けて 正社員数は増加傾向

連結グループでの2024年12月期通期営業利益の黒字化に向けた、一人あたりの生産性の向上や組織の強靱化のための取り組みが成果を上げ、売上成長を達成しています。

2024年下期からは、通期営業利益の黒字化を前提に、事業成長をさらに加速するために、営業や新規事業における人員の採用を積極的に推進しています。

当第3四半期末の正社員数は、143名と直前四半期比で増加しました。



*アルバイトを含まず

アジェンダ

- ① 会社概要と事業概要
- ② 2024年12月期 通期業績予想の
上方修正について
- ③ 2024年12月期 第3 四半期決算説明
- ④ 補足事業数値
- ⑤ その他



■ プレスリリース

Topics

1

ギグワーカーを活用した施設運営BPaaS事業を担う
新会社「株式会社Migakun」を設立

Topics

2

成田富里徳洲会病院が全棟規模で
Akerun入退室管理システムを導入、
不正侵入や離院の防止による安心・安全な病院運営を実現

Topics

3

Akerunブランドの新サービスとなる
「Akerun QR受付システム」を提供開始

Topics

1

ギグワーカーを活用した施設運営BPaaS事業を担う 新会社「株式会社Migakun」を設立

2024年7月に発表した、ギグワーカープラットフォームを活用した施設運営BPaaS事業「Migakun」を担う子会社「株式会社Migakun」を9月2日に設立しました。

「Migakun」の提供を通じて、業種・業態を問わず人手不足対策や施設運営効率の向上を目的とした無人化・省人化に取り組むオフィスや施設ごとの課題に合わせた管理運営業務の設計、ギグワーカープラットフォームを通じた総務業務や清掃・管理、コミュニティスペースの運営などの施設運営BPaaSのサービスを提供します。



Topics

2

成田富里徳洲会病院が全棟規模でAkerun入退室管理システムを導入、不正侵入や離院の防止による安心・安全な病院運営を実現

医療法人徳洲会 成田富里徳洲会病院が、
全棟規模のセキュリティ強化とゾーニング、入退室管理のための
ソリューションとして「Akerun入退室管理システム」を
採用しました。

成田富里徳洲会病院では、大規模な病院施設における
24時間体制での外部からの不正な侵入の防止、
入院患者の離院・離棟の防止、そして患者の医療情報や医療機器の
保護が可能になり、安心・安全な病院運営と低コストでの
セキュリティの強化を実現しています。



Topics

3

Akerunブランドの新サービスとなる 「Akerun QR受付システム」を提供開始

「Akerun QR受付システム」により、受付などに掲示したQRコードを来訪者が手持ちのスマートフォンなどで読み込み、簡単な入力操作だけで非対面・非接触で受付手続きを完了でき、自動的に担当者に通知されるため、従来のような受付用の電話やタブレット端末などが不要で、簡易的かつ安価に受付システムを導入できます。

「Akerun入退室管理システム」を組み合わせることで、受付～入退室管理までの大幅な業務効率化だけでなく、受付業務の無人化・省人化も実現できます。



- 1Q/3Q決算は、主に決算内容及びKPIについてのアップデートを予定
- 2Q/4Q決算は、上記アップデートに加え、経営戦略についてのアップデートを予定
- 「事業計画及び成長可能性に関する事項」については、
年に一度、本決算の発表時期後（2月頃）を目処として開示を行う予定
- 決算関連資料は、説明会後に弊社WebサイトのIRページに掲載予定
<https://photosynth.co.jp/ir/>
- IRに関する問い合わせは、下記e-mail アドレスにお送りください
ir-net@photosynth.co.jp

- 本資料には、いわゆる「見通し情報」 (forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づき作成されており、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、国内外の経済情勢等のマクロ環境の変化のほか、技術開発競争など、当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。
- 事業環境および市場動向の分析や研究開発投資による競争力の維持・強化に努めておりますが、上記リスクや不確実性を排除するものではありません。



つながる
モノづくりで
感動体験を
未来に組み込む

